

つり環境ビジョン調査型マダイ放流を実施

三浦半島の各所に約35万尾

日本釣用品工業会 神奈川県栽培協会 育成した稚魚を活魚船で

(一社) 日本釣用品工業会 (公財) 鳥野三会長と (公財) 日本釣振興会 (高宮俊諦会長) では、「つり環境ビジョン」優先3事業を推進しているが、そのうち調査型放流事業を8月2日、神奈川県の三浦半島で実施、マダイ稚魚を放流した。

この日は午前5時30分より作業を開始。小網代湾で中間育成するために設置している海上夜の生簀からマダイ稚魚を活魚船に移し、数力所の海域で放流した。

今回、放流したマダイ稚魚は約35万尾で、平均60センチに育っており、前日に生簀上面あたりの数量を独自の方法で計測していた。そのうち日釣工つり環境ビジョン事業

として約20万尾。また200尾あり、稚魚を運搬するための生簀を準備

として約20万尾。また200尾あり、稚魚を運搬するための生簀を準備

として約20万尾。また200尾あり、稚魚を運搬するための生簀を準備

として約20万尾。また200尾あり、稚魚を運搬するための生簀を準備

として約20万尾。また200尾あり、稚魚を運搬するための生簀を準備

として約20万尾。また200尾あり、稚魚を運搬するための生簀を準備

として約20万尾。また200尾あり、稚魚を運搬するための生簀を準備

として約20万尾。また200尾あり、稚魚を運搬するための生簀を準備

として約20万尾。また200尾あり、稚魚を運搬するための生簀を準備

として約20万尾。また200尾あり、稚魚を運搬するための生簀を準備

として約20万尾。また200尾あり、稚魚を運搬するための生簀を準備

として約20万尾。また200尾あり、稚魚を運搬するための生簀を準備

として約20万尾。また200尾あり、稚魚を運搬するための生簀を準備

として約20万尾。また200尾あり、稚魚を運搬するための生簀を準備

として約20万尾。また200尾あり、稚魚を運搬するための生簀を準備

として約20万尾。また200尾あり、稚魚を運搬するための生簀を準備

として約20万尾。また200尾あり、稚魚を運搬するための生簀を準備

として約20万尾。また200尾あり、稚魚を運搬するための生簀を準備

として約20万尾。また200尾あり、稚魚を運搬するための生簀を準備

として約20万尾。また200尾あり、稚魚を運搬するための生簀を準備

として約20万尾。また200尾あり、稚魚を運搬するための生簀を準備

として約20万尾。また200尾あり、稚魚を運搬するための生簀を準備

として約20万尾。また200尾あり、稚魚を運搬するための生簀を準備

として約20万尾。また200尾あり、稚魚を運搬するための生簀を準備

として約20万尾。また200尾あり、稚魚を運搬するための生簀を準備

として約20万尾。また200尾あり、稚魚を運搬するための生簀を準備

として約20万尾。また200尾あり、稚魚を運搬するための生簀を準備

として約20万尾。また200尾あり、稚魚を運搬するための生簀を準備

として約20万尾。また200尾あり、稚魚を運搬するための生簀を準備

として約20万尾。また200尾あり、稚魚を運搬するための生簀を準備

として約20万尾。また200尾あり、稚魚を運搬するための生簀を準備

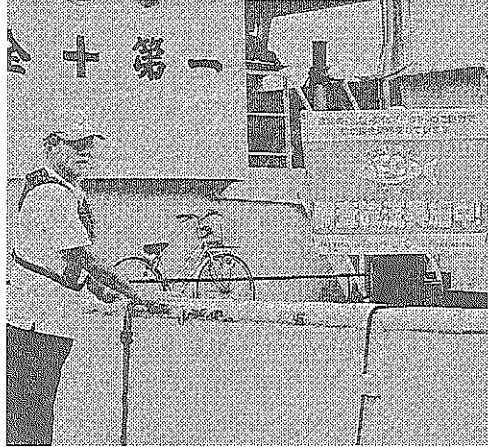
として約20万尾。また200尾あり、稚魚を運搬するための生簀を準備

として約20万尾。また200尾あり、稚魚を運搬するための生簀を準備

として約20万尾。また200尾あり、稚魚を運搬するための生簀を準備

として約20万尾。また200尾あり、稚魚を運搬するための生簀を準備

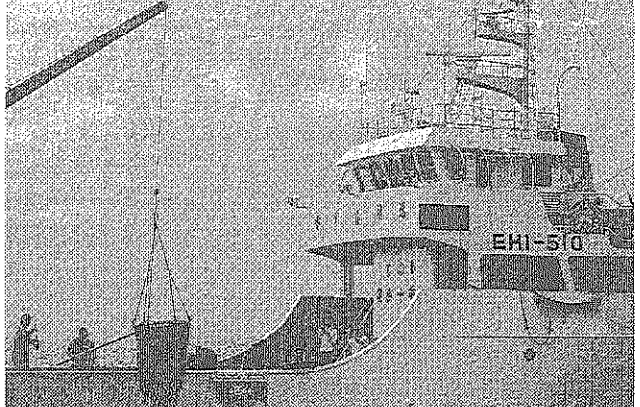
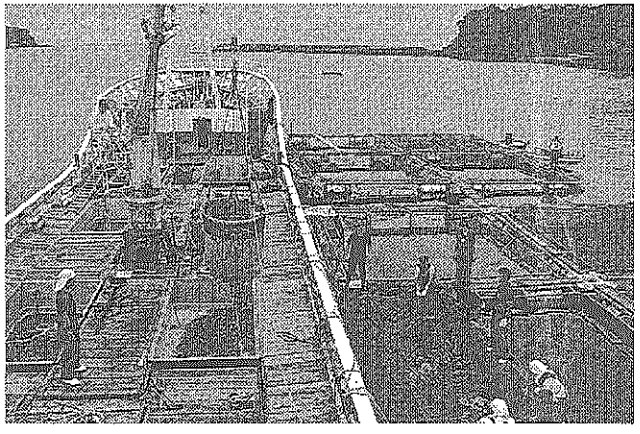
として約20万尾。また200尾あり、稚魚を運搬するための生簀を準備



つり環境ビジョン委員会の小島忠雄委員長もマダイ放流作業を視察する



小網代湾の海上夜からマダイの稚魚をすくい、クレーンで活魚船に積み込んで、松輪沖などで放流



この日の作業では、防鳥ネットを外して稚魚を海上夜に横付けした活魚船

移す準備を整えた海上夜の生簀の網を寄せ、その

船からクレーンで下部が開閉式になっている特製のタモ網を入れ、水ごと

その活魚船には日釣工の専務理事らも乗船して小網代湾から移動。日釣工

城ヶ島を回り、まず松輪沖で放流。船上の生簀から特製タモ網をクレーンで持ち上げて、次々に放流した。その後、横須賀

東部、金沢沖でも同様に放流して、無事に作業を終了した。

すくい、活魚船の生簀に稚魚を運び入れた。それを何度も繰り返し、活魚船に稚魚を積み込んだ。

今回の放流に関して、日釣工つり環境ビジョン委員会の小島忠雄委員長は「つり環境ビジョンの優先3事業の一つとして稚魚の放流に取り組んでいるが、従来の釣りの放流と違って産卵、中間育成から放流まで神奈川県栽培協会の作業を視察、今後は追跡調査をして、調査型放流事業として取り組んでいく。このマダイの稚魚が何年か経って、どれだけ大きく育つか、それによって放流の効果も判るわけだ。魚が自然に増えることはなかなか難しく、大事な資源を維持するには捕獲を制限するか、放流するしかない。そのためにもこの事業を継続して推進していきたい」と述べている。

ちなみに放流したマダイ稚魚の生育状況、分布状況など調査する方法として鼻孔の欠損によって検証するというもので、これまでの実績から放流1年後に18%、3年後には30%に成長。また概算回収率は6%、12%で、釣人の釣る約40%は放流魚といわれている。